

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日, 評価結果市町村受理日. Contains details for 0175000520.

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・日勤者4名、夜勤者2名の勤務体制になっている。
・入居者の希望により、外出(花見、外食、観光、散歩、美容室、買い物、墓参り等)をしている。
・街の中心なので買い物、通院などが便利。
・スタッフと入居者が家族同様に係わっている。
・様々なレクリエーションを活用し、入居者同士の交流を深めたり、残存機能の向上を図っている。
・入居者の誕生日には誕生会を開催しお祝いしている。
・家族来所時には最近の様子を話したり、写真を見てもらったり、変化があればその都度説明し、話し合いをしている。
・昼食に入居者スタッフ全員で出前を注文したりカップ麺を食べることもある。
・リフレッシュ休暇制度や人事考課制度を取り入れ、昇給や職員が意欲と向上心を持って働けるようにしている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, URL address: hlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigvoynoCd=0175000520-008

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日. Details for 有限会社 NAVIRE.

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設時より日中4名、夜勤2名体制を維持し、外出支援や利用者の希望や要望に速やかに対応できるようにし、利用者の状況に合わせた個々の役割を提供して行ける様、創意工夫をしており、出来るだけ利用者、家族のニーズに応えられる様努力をしています。認知症であっても、地域であたりまえに暮らし、人間の尊厳を大切に、残りの人生を豊かに生きていくという利用者の気持ちに寄り添いながら、利用前の生活に近い環境を提供し、利用者のストレスを軽減するように努め、日々の支援に繋がっています。また、利用者により理解するために利用者個々のライフストーリーを作成し、これまでの暮らしを敬うよう支援しています。ホーム長は、介護基本14項目を職員に徹底しており、職員は常に意識し、利用者本意になるように努め、認知症を遅らせるため、外部からの刺激を受けやすく五感へと体感させるために、外出・外食・出前など果敢に挑戦しています。利用者の意向に沿って、その方の有する能力を活かし、日常生活の役割としてのゴミ出しや食事の準備など日々の喜びとなるように支援しています。毎月外部向けの事業所便りを7か所配布して、事業所の周知・理解に努め、今年導入したリフレッシュ休暇の取得や人事考課の実施をすることで、職員のやる気や介護向上を引き出しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念である「ゆっくり ゆったり ゆるやかに」を共有し、入居者が自分らしく安心して生活できるように実践へとつなげている。	「ゆっくり ゆったり ゆるやかに」を共通の理念とし、各ユニットに掲示しています。どうすれば常に利用者本意になるかを考え職員同士で検討しています。月1回の職員会議で職員の再確認の場として理念を復唱しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会への参加もしており、天気の良い日には町内を散歩する事で地域の人達と挨拶をしたり、地域の一員として日常生活を送っている。	お祭りや市のイベントの催し物などを積極的に参加し、なるべく利用前の生活に近い環境を提供するように努めています。町内会に加入しており、事業所の周知・理解に繋がるように、町内会などに毎月外部向けの事業所便りを配布しています。日常的に買い物、散歩などを通して挨拶を交わし交流しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人に向けて認知症の理解を深めている。また地域の商店街を利用している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2か月に1度行い、家族、町内会長、地域包括支援センター、民生委員へ日頃の報告や話し合いをしサービス向上に活かしている。	議事録は全家族に送付し、事業所の理解へと繋げています。運営推進会議は2ヶ月に一度開催し、状況報告やヒヤリハットなどの報告・意見交換に努めています。	利用者や家族に順番性等の工夫で運営推進会議の参加を促し、出来るだけ多くの方から、意見や要望を得てより適正な事業所運営が図られることを期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護福祉課、生活保護課などと様々な内容について密に連絡を取り合い協力関係を築いている。	行政関係機関とは利用者と共に申請手続きなどに出向き顔が見える関係構築に努めています。また、各報告の他、相談やアドバイスももらい、運営推進会議へも参加をいただいております。良好な協力関係が構築されています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	また、訪問者の目の届く玄関に身体拘束についての張り紙を貼っている。年に2回の内部研修にも取り組んでおり、職員が日頃より身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を設置し、年2回内部研修を実施しており、身体拘束の内容と弊害を共有し、NGワードとして「だめ」「どこ行くの」等の言葉を使用しない取り組みも継続し、利用者の心情に配慮し、尊厳を尊重した介護提供を目指しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々 入居者への虐待が見過ごされないように注意を払っている。また年に2回の内部研修を行い虐待防止についての意識を高めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個人学習や研修会への参加、資格の取得などでそれらを活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族の不安や疑問を訪ね、契約時、解約時には各項目事に十分な説明を行い、納得、理解を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	連絡先の記載をわかりやすい玄関等に設置し毎月の通信などにも掲載し、入居者や家族へ日々の生活の中でさりげなく意見や要望を聞きそれらを運営に反映させている。	利用者・家族とのコミュニケーションを大切に、利用者とは日々の関わりの中で、家族とは面会時や電話などで個別に困りごとなど要望を聞き取っています。職員間で話し合い、解決できることは速やかに対応し、事業所運営やサービス向上に活かしています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度のスタッフミーティングに管理者は出席し、職員の意見や意向に耳を傾け提案を聞き反映させている。	今年から、リフレッシュ休暇の実施や人事考課制度の評価基準を職員に示すことで、職員のやる気を引き出し、利用者のサービス向上に努めています。新人介護スタッフ育成計画を行い教育委員の職員自らの技術の再認識に繋げ、意識向上して行ける取り組みを行っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の勤務体制を管理者は把握し、各自が向上心、意欲を持って働けるような人事考課制度を導入し昇格、昇給を行っている。またリフレッシュ休暇制度も取り入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	教育担当を配置する事により、一人ひとりのケアの力量を把握し、それぞれのレベルに合った研修会に参加させたり、新人介護スタッフ育成計画書を活用したりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北海道認知症グループホーム協会に属し情報共有を図っている。また他事業所との交流や意見交換をし向上に努め、研修会や勉強会にも積極的に参加している。			
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心して生活できるように支援し、入居後も新たな要望に応えられるように面談の際にも多くの情報を聞き信頼関係を築いている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に家族の意向を確認し、入居後も家族来所時には声を掛け信頼関係を築ける様いつでも要望が聞けるようにしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談の際や入居時には必要である支援を見極め、本人や家族の意向を元に他のサービス利用を含めた対応や紹介を行った支援をしている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の中で学び関係を築ける様、日常生活を共に暮らし、調理や洗濯物干しなど行っている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と共に入居者を支えていけるようなコミュニケーションを図りながら日常生活をしている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話の取り次ぎや外出の支援を本人の希望や要望に応じ行ったり、昔からの友人、知人等が自由に出入りでき、自室でゆっくり楽しく過ごせる環境作りを心掛けている。	家族や友人・知人の面会や神社参拝、理・美容院、馴染みの店での買物のほか、家族の協力を得ての墓参りや正月帰省など、これまでの関係が途切れないよう支援しています。なるべく利用前の生活が送れるように努めています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を大切にし、一人ひとりが孤立しないように努め意思疎通がし合える様な支援を行っている。			
22		○関係を断ち切らない仕組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も連絡が出来る関係を構築する様努め、いつでも本人や家族からの相談に対応できるようにしている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族の希望を重んじ入浴、食事、外出など意思が反映されるように努めている。	利用者が疎外感を持たないように日常的に利用者への声をかけを行い、日々の生活の会話の中で言葉や表情から思いを汲み取っています。日頃の状態を観察し、実現できるようにスタッフ同士情報を共有したり、そのサインを見逃さないように努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族より生活歴を聞き、自分史やライフストーリー表を作成し、これまでの暮らしを敬うよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの実情を職員同士が把握できるように日誌、温度板へ記録し、申し送り等で詳しく報告している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、関係者と協議、センター方式を用いて今必要な介護計画を作成、モニタリングを行い、ケアプランへと反映している。	6ヶ月を目途に見直しを行っています。ケアプランでは担当制を導入しており、カンファレンス会議で、利用者本人の出来ること出来ないことを意見交換し、状態に合わせなるべく残存能力を維持した計画となるように努めています。家族には面会時や電話等で近況報告を行っており、計画についてはその都度希望に沿うように努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、結果を日誌や温度板を元にサービス担当者会議で話し合い、ケアプランの見直しに最大限活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに応じ希望があれば遠方から来所される方の宿泊の手配、系列の病院の利用、葬儀の参加の手助け等の支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全で豊かな暮らしを楽しめるよう一人ひとりの意向に応じ、商店街(スーパー、美容室、薬局等)の利用を支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族が希望すれば、玉越病院、本間内科医院などが受診できるように医療機関と連携を取りながら支援している。	利用前からのかかりつけ医に継続して通院し、受診は事業所が対応し受診前後には家族へ連絡しています。週1回の訪問看護師や事業所の看護師による健康管理が行われ、利用者の安心・安全に繋がっています。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の中での気づきを職場内の看護師や、往診の先生、訪問看護師と共有し、助言をもらうなどの連携を取り、適切な受診や看護を受けられるよう支援している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはフェイスシート等で本人の情報提供を行っている。また医療機関と密に情報交換をし、安心して治療が受けられるようにしている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りを行っており、重度化した場合には家族と相談し方針を決めている。日頃よりかかりつけ医や職場内の看護師と連携を密に取り、体調の変化があった場合には迅速に対応している。	事業所としての指針があり、契約時と看取りの必要な時に説明し同意を得ています。看取りを実施する方針に沿って、終末期の介護技術や医療との連携、環境整備などについて、勉強会が行われています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は消防の普通救命講習を受けており、目の届く場所に対応マニュアルを設置し、日頃より条件を変えてのシュミレーションを心掛けている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	半年に1度消防訓練を行い、全職員が避難訓練を身につけている。また対応マニュアルも設置しており、スプリンクラーや消防通報装置を想定した訓練を行っている。	夜間想定も含めて、年2回の消防訓練は実施しています。各ユニット毎に設置されている消火栓や消火器の使い方を理解しスムーズに行動できるように全職員で取り組んでいます。建物には、浄化槽の設備や建物オーナーとの協力体制が構築されています。災害に備えカセットボンベ2台を各ユニットで備蓄しています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに関わる会話は他者のいない所や耳元で話すなど、人格尊重に配慮している。呼び方も本人家族の了解のもと本人が慣れ親しんだ呼び方をしている。	なるべく利用前の環境に近づけるように、利用者・家族の了解の基慣れ親しんだ呼び方に心がけています。また、プライバシーを尊重し職員同士話し合い声掛けについては、一人ひとりに合わせた工夫をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来るように質問型の声掛けをする等、日常生活の中で一人ひとりの希望を優先している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に添った生活が送れるよう一人ひとりのライフスタイルを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望する美容室へ行ったり、一緒に買い物をしたり、意に添ったその人らしい生活が送れるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の希望に合わせた外食したり、スタッフと一緒に食事を作ったり、準備を行っている。	利用者と一緒に食事の買い物、利用者には可能な限り調理や準備、後片付けを手伝ってもらう等、それぞれに役割をもって食事に関わっていただいています。利用者の希望を聞いて出前を取ったり、外食をしたり、食事を楽しむための配慮がされています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態等を見て毎食の食量や水分量をチェック、栄養士の指導を受け、栄養のバランスを取っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けをし口腔内の清潔を保持してもらい、できない部分は職員が介助している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを考え、トイレでの排泄ができるよう支援している。	排泄チェック表でそれぞれの排泄パターンを把握し、利用者のプライバシーに配慮しながら利用者一人ひとりにあったトイレへの声かけや誘導をしています。トイレでの排泄を習慣付けて、日中は利用者のほとんどが布パンツやリハビリパンツで過ごしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体を動かすために毎朝体操を行い、食事の中に乳製品を取り入れ、一人ひとりの排泄回数をチェックしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者に合わせ最低週に2回は入浴できるよう声掛けし、入浴前にはバイタル測定を行い体調の変化に注意している。	入浴は週2回で、本人の希望時にゆっくりとリラックスできるよう取り組んでいます。利用者の残存能力を活かし、出来ることは自分でを行い、夏場や好みによりシャワー浴などを行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して眠れるように入居者が馴染んだ物を使用し、状況に応じては休息して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があればその都度全スタッフに申し送り、薬の目的や用法、用量を把握してもらい、薬の管理を徹底しファイルを作成している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で一人ひとり張り合いを持って頂き、食事の手伝いや裁縫などをして頂いている。またレクリエーション等で気分転換を図って頂いている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域のイベントやドライブ、花壇の手入れ等、一人ひとりの体調を考慮し外出出来るよう支援している。	日常的に近隣の美容室や買い物など家にいた時と同じ状態の生活をさせていただくために、日光表をもとに事業所の周りを散歩したりと外に出掛けるよう可能な限り支援しています。職員はアンテナを張り、出掛けたことのない場所を探し、外出でリフレッシュし気持ちを明るく、喜んでもらえるよう取り組んでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全入居者のお小遣い帳をコピーし家族に郵送し、家族と本人の希望を優先し本人管理の場合にはお小遣い帳をスタッフと共有できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙等は本人の希望に添ってかけたり、代読している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季の飾り付けをし、家族的な雰囲気を感じて頂けるように工夫し1年中過ごしやすい環境作りを心掛けている。	3ユニット毎に、創意工夫がされて、利用者の動線に配慮された配置にしています。居間は木目を基調に温かみのある空間になっており、利用者は居心地良く落ち着いて生活できる家庭的な雰囲気になっています。壁には、行事の写真や利用者の作った作品、季節にあった飾り付けがされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子、テレビの配置等を考え他者様とのコミュニケーションを取って頂けるよう工夫している。キッチン横に人の気配を感じながら1人になれる椅子がある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人、家族と相談し、使い慣れた物や好みの家具を配置し、快適に過ごせるよう工夫している。	居室には自宅より持ち込まれた馴染みの家具などが設置されています。本人の希望により、家族や踊りの発表会時の写真などを飾ったり、仏壇にお米やお水などを供えたりその人らしく生活ができるように配慮されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所に手すりを付け、車椅子が使用できる広さを確保、自立した生活ができるよう環境作りを工夫している。		